

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2770302004		
法人名	特定非営利活動法人緑樹会		
事業所名	グループホーム緑樹		
所在地	大阪府寝屋川市梅が丘2丁目26-1		
自己評価作成日	平成 23年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 緑に囲まれた環境を活かし、職員1人1人が優しさで温かさの介護を実践するよう努力を続け、地域と共に、家庭的で安堵感のある生活環境創りを進めます。</p> <p>2. 利用者1人1人の人としての尊厳を守り、プライバシーを尊重して、その人らしく過ごせる支援を続けます。</p> <p>3. 利用料等、経済的負担の軽減を追求し、利用者と家族との信頼関係に基づいた、安心して安全な緑樹で在り続けます。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770302004&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長年高齢者福祉に携わってきた理事長が、経済的な負担をできるだけ少なくして、安心できる家庭的な環境を提供したいとの思いで設立されたグループホームです。緑に囲まれた丘陵地に建てられ、小学校や民家、畑等のどかな景色を眺められます。ホームは建物の1・2階を利用した2ユニットです。美味しい食事の提供はホームのこだわりのひとつで、3食ホームで調理しています。台所は広々としており、利用者と職員が活き活きと食事作りに取り組んでいます。「私たちの自慢は、利用者の笑顔と、職員が楽しそうに仕事をしている表情です」と言われるように、明るいリビングからは、利用者の笑い声や楽しい会話が聞こえてくるグループホームです。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 3月 4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」を理念とし、掲示、全体会議等で職員全員が理解を深め、一人一人が考えながら理念に添って行動出来るよう、取り組んでいる。	「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」を理念に掲げ、実践しています。2ヵ月に1回の合同会議では理念を確認し、基本に戻る機会にもなっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議を通じて集会所での展示会への出展や地域祭り等、自治会の行事に御招待頂いている。毎月2回の町会喫茶では地域住民から声をかけて頂き、踊りやドッグセラピー等のボランティア活動をして頂いている。近隣地域からの入居者も有り、職員共々、地域住民に顔を覚えて頂いている。	地域との交流も広がり、自治会の行事にも参加しています。隣にある小学校には運動会に参加します。地域の団地集会所で月2回行われている「陽だまり喫茶」にも参加し、地域住民と顔なじみの関係ができました。習字・踊り・ドッグセラピー等のボランティアの協力で、利用者の生活が豊かになっています。市の「元気アップサポーター」による週3回の生活支援の協力も得ています。地域から、見学や相談が多いのも特色です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、自治会の方に介護についての相談受け入れの説明を行っており、近隣にお住まいの高齢者には、施設内の季節行事への参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における検討事項を基に、その後の状況や取り組みを報告し、更なる改善に向けて意見交換をしている。今後の方針についても意見を頂き、必要があれば参加委員に協力をお願いする事もある。	自治会会長・市の担当者・地域包括支援センター職員・家族代表が参加して、2カ月に1回開催しています。利用者の生活状況報告や地域の情報交換等が行われています。欠席された方には議事録を送付しています。	会議メンバーからの貴重な意見を、職員間でも共有するために、会議録を回覧しサービス向上に活かすことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護室へ、書類の提出等の機会に可能な限り出向き、担当者に状況報告や相談をすると共に情報収集に努め、連携を深めている。	日頃より市の担当課へ相談をしながら運営しています。帰宅願望の強い利用者が、地域包括支援センターとの連携で自宅復帰し、今では元気に自宅で生活され、グループホームへ遊びに来られる事例もあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議での話し合いを基に、施設内研修にて、職員全員が身体拘束の弊害について認識と理解を深めている。家族様には職員と話し合う機会を出来るだけ多く作って頂き、ご理解とご協力を頂きながら身体拘束をしない、安全なケアについて検討し、実践している。	身体拘束や高齢者虐待の研修を実施し、尊厳についての意識を共有しています。不穏時に安全ベルトを使用していた利用者家族より苦情があり、職員が身体拘束について真剣に考える機会となりました。身体拘束に対する意識向上に向けて、身体拘束委員会を立ち上げ、身体拘束廃止を続けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報や事例を用いて、施設内研修で検討、意見交換を実施し、日常より職員の意識の徹底を図っている。入居者と職員、職員同士の信頼関係の構築に重点を置く事で見通しの良い施設環境を作り、虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度に関する研修等へ参加出来る機会を設け、合同会議やケース会議にて理解を深める事で、必要があればすぐに対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な時間を作り、解約の条件も含めた説明をする。家族様の疑問に一つずつ答えながら不安を取り除き、理解を得られるように努めている。改定の際には、運営推進会議でも意見を頂き、慎重に実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が入居者と日々、コミュニケーションをとり、家族様の来訪時には近況報告をし、話しやすい雰囲気、関係作りに努めている。家族様への郵送でのアンケートも実施し、要望に対してはすぐに検討、実施している。	家族の面会時には近況報告を行い、家族から意見や要望を聞いています。また、3カ月に1回定期的に状況を報告しています。行事の度に家族の参加も呼びかけ、多数の参加があります。今年は、家族へのアンケートを実施し、家族の意見や要望をサービスに反映していく取り組みを実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に事業所負担での懇親会を実施する等、日常的に職員とのコミュニケーションを大切にする事を心がけている。会議の際にも積極的に職員の意見を聞く機会を設け、一つ一つ検討したうえで、可能な限り対応している。</p>	<p>2か月に1回の合同会議では、職員の意見を聞くようにしています。日常的にも管理者や事務長に意見が言いやすい職場環境になっています。認知症実践者研修の実習事業所になっていることもあり、同業者との交流で職員の士気が高まっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日常の職員同士のコミュニケーションを重視し、全員が楽しんで仕事ができるよう「職員の和」を大切にしている。職場環境の問題点、要望等に常に耳を傾けるよう努めると共に、勤務実績・年数を考慮した給与設定や、個々人の家庭環境に配慮した勤務シフトを提供するよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の年間研修計画を基に、大阪府社会福祉協議会研修センターや寝屋川市の研修に積極的に参加している。又、一人ひとりの力量に応じた施設内でのOJT、全体の質の向上を目的とした合同会議での教育研修を実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市の勉強会や施設見学会に参加できる機会を設け、他施設と兼務している職員や、施設実習にて当施設に来て頂いた方の勤務先との交流を進めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者や家族様より情報を事前に収集し、ご本人からも、よく話を聞く機会を作り、時に見守り、相談もしながら信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安点、問題点を聞き、解決策を見つける為の話し合いを日常的に心がけている。初期段階では、特に連絡を密にし、より良い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の介護内容、経済的負担等の希望条件を考え、様々な角度からご本人、家族様にとって善いと思われるサービスを勧めることを前提とし、当ホームがそれに値すると思われる場合には、全力で受け入れ、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、生き活きとした生活が出来るよう支援することで、職員もエネルギーを頂いている。人生の先輩として接する事で意見やアイデアも頂きながら、家庭的な環境で支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏季のイベントや、秋の外出、お花見等への参加を家族様に呼びかけ、疎遠であった家族様には、少しでも関係を近づけて頂けるよう努めている。ご本人の希望による電話・外出・帰宅に関しては、常に協力を呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	挨拶状や年賀状等、手紙でのコミュニケーションを支援し、知人等への電話での会話も支援しながら、先方が気軽に来訪して頂ける環境作りに努めている。	友人の訪問、電話や手紙での連絡を取り持つこと、友人宅へ訪問する等、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように支援しています。行きつけの美容院に行ったり、入居前から加入している老人会に現在も参加している利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が共同生活において、掃除・洗濯・食事などに関して助け合い、協力しやすい環境と雰囲気構築し、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院している退居者へのお見舞いや、退居者の訪問を受け入れ、従来通りの関係を保ちながら、積極的に継続した支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員各自が日々、会話を交わし、ご本人の表情や行動に注意しながら関わり、思いの把握に努めている。記録や家族様の情報も参考に、常に職員間で話し合い、情報交換を行っている。	大阪認知症高齢者グループホーム協議会のアセスメントシートを使って、利用者の思いや希望の把握をしています。また、日常的な関わりの中での気づきや発見を記録に残しています。夜勤の申し送りには時間をかけ、利用者情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居直前の調査により、以前の生活スタイルを出来る限り変化せずに生活できるよう家族様、ご本人から情報を集め、ご本人の意志を尊重した生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動について些細なことでも記録に残し、状態が安定しているか、小さな変化も見逃さないよう、常時見守っている。記録だけでは伝わりにくい内容は、職員間で口頭にて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常にご本人、家族様からの意見や要望を聴く機会を積極的に設け、看護師との相談、全体会議やケース会議で検討している。ケース会議では参加職員を毎回入れ替える事で多様な意見を取り入れ、変化に対応しながら固定化しない介護計画作成に努めている。	利用者や家族の思いや意見を反映した介護計画です。ケース会議は毎月行っています。3ヵ月毎のモニタリングを行い、6ヵ月毎に更新しています。変更した援助項目にマーカーで印をつける等、介護計画を職員間で共有し、日々の支援で実施するために、計画作成担当者が工夫をしています。計画作成担当者を中心とした職員の努力で、介護計画の内容が利用者本位の計画に充実してきました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアに対する効果を細かな点まで記録し、変更点は連絡ノートにて速やかに職員全員に周知し、実践している。ケース会議にて、記録や職員からの情報を基に話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の状況の変化や、要望に添った柔軟な対応を心がけ、常に新たな可能性を模索しながら、一人ひとりに合った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道教室への参加や美容院での整髪、小学校行事の見学に出かけたり、施設行事ではボランティア協力を地域より頂いている。また、消防署や近隣病院との連携を強める等、地域資源の活用を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族様の希望するかかりつけ医に、家族様と協力して通院・受診を行っている。職員の付添いや、日々の状況の記録をお渡しし、普段の状況を報告している。	入居前からかかりつけの医療機関に受診している利用者もいます。医療機関との連携で月2回の往診があり、訪問看護ステーションからも週1回訪問があり、健康管理を行っています。夜間等の緊急時にも、訪問看護ステーションの協力を得ることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回の定期訪問や緊急時の電話相談・訪問が可能な体制となっている。また、協力医療機関の担当医に直接看護師から連絡して頂くことで、より適切な健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との協力体制を日頃から築き、入院時には円滑な情報交換や相談を行い、常にご本人の状況を把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいた説明を実施し、その後も職員、家族様を含めて当ホームの現状の把握や、出来ることを話し合い、主治医・看護師と相談を重ねながら、重度化に向けての考えを共有している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ています。重度化や終末期の対応は、今後も話し合いを重ねながら取り組んでいくこととしています。24時間医療が必要になったり、経口摂取が困難になったりした場合は、ホームでの支援は難しいとの考え方です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にて研修を行い、事故発生時の対応について学べるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「防災マニュアル」を作成し、定期的に職員、入居者参加の避難訓練を実施している。近隣住民への協力依頼や、運営推進会議を通じて、周辺自治会の協力もお願いしている。	「防災マニュアル」を作成し、消防署の指導を受け、年2回の避難訓練を実施しています。避難訓練の度に近隣へ協力の文書を配布しています。非常災害時用の水や食料も備えています。非常災害に関する訓練は行っていますが、日常的に起こりうる事故や緊急時対応についての研修が不足している状況です。	今後は、事故や緊急時対応の研修を実施し、より利用者の安全な生活や職員が安心して仕事ができる環境を整えることが期待されます。また、近隣と地域防災について検討されることも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格尊重を重視した、日々の言葉遣いや対応についてマニュアルに記載している。職員各自が責任を持って実践できるよう、施設内研修にて意識向上を図る為に指導、教育をしている。	個人情報保護やケアの中でのプライバシー保護に関する研修を実施しています。「優しさで温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム作り」の理念を具体化するために、職員は思いやりを持ち、利用者を尊敬する姿勢で支援にあたっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の理解度、判断力等、現状に即した形で希望を把握し、入浴、食事、レク行事等、常に問いかけの言葉遣いで自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに主眼をおいた生活を重視して、コミュニケーションを大切にしている。押し付けない、強制しない態度と言葉遣いで接し、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に応じた服装や着物の着付け、町内の理・美容院の利用、施設内でのヘアカットや簡単なエステ、お化粧などを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の要望を可能な限り取り入れ、一週間のメニュー表を掲示し、楽しみにしてもらっている。畑と一緒に採った野菜を料理に使用したり、時には買い物から調理まで入居者が主体で行う日を設けたりしている。	美味しい食事の提供は、ホームのこだわりの一つで、利用者の希望も聞きながら作った献立で3食ともホームで作っています。材料は地域にある店から配達してもらったり、生協を利用したりする等、週1回の買い出しで賄っています。広い台所では、利用者と職員が調理や後片付けをしています。食事については、利用者も味つけに満足しており、楽しみにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と協力してカロリー計算や栄養バランスの管理を実施している。体重、水分摂取量の記録を基に、一人ひとりの習慣や自立度に対応しながら、体調に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の口腔状態、自立度に応じて、食後の声かけや介助、義歯消毒を支援している。状態の悪い入居者には、週一回の訪問歯科にて口腔ケア、虫歯治療を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、入居者の身体機能に応じて声かけ・誘導・介助をしている。各居室にトイレが設置されている。各居室にトイレが設置されている便利さを十分に活用し、トイレでの排泄を基本とした支援を行いながら、紙パンツ、パッド類を必要に応じて検討している。	排泄チェック表で個別の排泄誘導・介助を行っています。各居室にトイレがあるため、安心して排泄することができる環境です。また、排泄についても機能低下せず、維持している状況です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、誘導・水分補給・散歩・体操などを促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、ゆっくり浸かりたい、一番に入りたい等、一人ひとりの希望に添って時間を決め、ゆず風呂等で季節感を演出している。	利用者の希望を尊重して、週3回の入浴を支援しています。浴槽は檜の個浴で落ち着いた雰囲気のある浴室です。菖蒲湯やゆず湯など季節に応じて入浴が楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じた配慮を家族様、主治医とも相談し、気候に敏感に対応しながら、使い慣れた布団を使用したり、ラジオを聴きながら就寝して頂く等、安心して休息・睡眠を取って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用の把握と管理に努め、特に処方変更時において職員に説明・指示を徹底し、症状の変化について詳細に記録・報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア協力による書道や唄の鑑賞、地域行事への参加や、外出・買い物・家事・カラオケ・生花・園芸・手芸など、利用者個々の希望や技術を活かし、意欲的に役割を持って頂くよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先には自由に出られるスペースを確保しており、天候のよい日には近隣の散歩や、買い物に出かけている。地域ボランティアの喫茶店でお茶を飲んだり、外食に出かけることもあり、時には家族様に協力を頂き古い友人を訪ねたりと、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	玄関先に菜園があり、自由に出ることができます。月2回の団地集会所での「ひだまり喫茶」への外出や買い物、公園への散歩、川沿いのよもぎ摘み等外出の機会は多くあります。月1回外出の日を決め、その日は職員配置にも配慮した勤務表を作り、利用者の外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて、家族様とも相談してお金を所持して頂いている。必要に応じて買い物援助や、金銭を持つ事への安堵感を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の想いを傾聴し、希望が有ればいつでも電話・手紙等で連絡を取れるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や写真を展示し、常に季節行事に合わせた飾り付けを心がけている。水槽で熱帯魚の飼育をしたり、花を生けたりして、季節感や安らぎを感じられるよう工夫している。	ホームの周辺はのどかな田園風景で、四季折々を感じられる景観です。玄関には、水槽に熱帯魚や金魚が飼われています。リビングのコーナーにはソファや畳のスペースがあり、1階2階それぞれにお雛様が飾られています。廊下の突き当たりにも椅子が置かれ、一人になれる空間もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にイスを配置し、数人でテーブルを囲めるようにしている。日中は玄関・庭先に自由に出て、座って過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に生活をしてきた様子を踏まえて、使い慣れ、親しんだ家具・仏壇・調度品などを配置し、ベッドを置くか、畳を敷いて布団で寝るかも自由に、従来の生活環境に即した生活が出来るよう配慮している。	各居室にはトイレがあり、床は絨毯や畳など好みに合わせています。机、タンス、書庫、鏡台が持ち込まれ、入居前の生活が継続されるよう配慮しています。コタツを使用したり、家族の写真を飾ったり、好きなぬいぐるみを飾ったり、個性豊かなその人らしい居室です。居室の名札は、入居時の季節の花等、利用者一人ひとり意味のある名札が飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	透明ガラス面へのシールや手すり、滑り止め、角部へのクッションガードなどを設置し、廊下は真っすぐ、リビングから各居室の入口が見渡せ、安全性に配慮している。トイレの表示や浴室の暖簾など、解り易さにも配慮している。		